

青森県立青森東高等学校

住所 青森市大字原別字遠山13番地

生徒数 男子六九二名 女子六〇九名

部員数 一名

顧問 若井 隆志

青森県立青森東高等学校は、昭和三十九年四月一日、青森市立北斗高等学校（当時）を仮校舎として開校しました。翌四〇年三月、青森市大字原別字遠山の現在地に新校舎が落成、移転しました。第一回生は普通科一〇学級五六〇名でスタートし、第二回生の時、一学級増となり、一一学級六一四名入学、第三回生からは再び一〇学級となりました。

昭和四十三年十月、本校に理数科を設置することが決定、翌年第六回生は、普通科九学級四三三名、理数科一学級三十九名、計四七二名入学。以来、昭和五十六年三月に理数科が廃止されるまでこの形態が続きました。

この間、昭和四十四年八月には、生徒館「東朋寮」が落成、昭和四十六年十一月に第二体育館落成、昭和五十五年四月に設置された平内分校が、昭和五十八年からは青森県立平内高等学校として独立しています。

本校は来年度、創立三十周年を迎えます。

次に、進路状況の話をしたと思います。近年、大学入学者数、進学者数ともに着実に増加してきています。例えば、過去四年間の状況を見ますと、昭和六十三年卒業生の国立大学合格者が九

二名、私立大学合格者が九一名、進学者実数が二三五名でしたが、平成元年度は、国立大学合格者一五七名、私立大学合格者一〇五名、進学者実数二八三名。平成二年度は国立大学合格者一四〇名、私立大学合格者一三七名、進学者実数二八八名と推移し、平成三年度には、国立大学合格者一七〇名、私立大学合格者一六四名、進学者実数二九八名と、いずれも過去最高の数学となりました。

次に、部活動について説明します。昭和三十九年度の創立当時、運動部八部（野球・バスケット・バレー・卓球・柔道・庭球・陸上・ソフトボール）、文化部六部（英語・自然科学・茶道・華道・音楽）を制定し、翌年度には運動二同好会（剣道・体操）、文化六部（物理・美術・放送・演劇・地学・郵便友の会）を加え、徐々に増やしてきました。成績としては、例えば昭和四十年度的における県高校書道展において団体一位、翌四十一年度には、県高校総体でバレー男子優勝、卓球男子個人戦で全国大会出場等、運動部、文化部を問わず活躍してきました。最近では、陸上部、テニス同好会、音楽部、放送部、漫画研究部等の活躍が目まぐるしく見えます。現在は、体育系の部が一五、体育系の同好会が二、文科系の部が一七、文科系の同好会が三の計三七の部・同好会が活動しています。

最後に空手道関係の話に入りたいと思います。本校では創立以来これまでに、空手道関係の部・同好会が制定されたことがありません。従って、高校総体等の大会には、一定の条件のもとに、本校教職員が仮顧問となって参加するという形を取らざるをえませ

ん。この形態で参加したものが、過去に一名、そして現在一名います。

先ず、過去に参加した生徒について説明します。名前は白鳥知見君。彼は幼稚園時代から空手道を始めています。通った道場は昌空館東道場で、小学校5年生の時に、少年の部の少年の初段位を獲得しました。昭和六二年四月に本校に入学し、本校に空手道を無いので、道場に通いながら練習を続け、高校総体への参加を強く希望していました。そこで学校としても対応を協議した結



果、当時生徒部長であった田中実先生が仮顧問となつて、一年時の秋の新人戦から大会に参加できることになりました。

戦績としましては、昭和六十三年度（二年生時）の秋の新人戦において、男子個人型の部で優勝、同年度の東北大会で同じく準優勝、選抜大会への出場権を獲得しました。

翌平成三年度（三年生時）は、春季大会において同じ

男子個人型の部で優勝、続く県高校総体でも優勝し、インターハイに出場しました。現在彼は、法政大学在学中ですが、引き続き

空手を続けており、現在は二段位を獲得しています。

最後に、現在在校中で、県高校総体に参加した生徒について説明します。名前は若井慈子さん。小学校二年生から空手を始めました。道場は青拳会で、小学校時代から各大会を通じて活躍してきました。中学二年生の時少年の部の初段位を獲得しています。今年度四月に本校に入学し、すぐに高校総体への参加を希望してきました。校内の手続きの関係で、春季大会には間に合いませんでしたが、県高校総体に参加することができ、女子個人型の部に出場しました。結果は予選落ちでした。各ブロック上位三位まで決勝に進出できるわけですが、Aブロック内の四番目の得点で、惜しくも決勝に残れなかったため、秋の新人戦での活躍を期待しています。新人戦からは組手の部にも出場する予定で、現在青拳会道場で練習を続けています。

本校は、部・同好会設立の条件が大変厳しく、容易には作る事ができません。そのため、このような変則的な方法でしか参加できません。生徒にとっても部・同好会がないため、練習する場所も無ければ、ともに練習する仲間もいません。週二、三回道場に通い、少ない練習時間と、少ない練習相手というハンディを背負いながら活動しています。それでも、現在在校生の中に、今まで空手を習ってきたという生徒や、空手をやってみたいという生徒が見受けられるので、遠くない将来、正式の部・同好会として、参加できる日が来るかも知れません。